

図們江地域の新地域開発計画

金 向 東^{*}

目次

はじめに

I. 図們江地域の新しい開発計画

- I-1. 国家政策の展開
- I-2. 全国人民大会の方向性
- I-3. 国連関係機構の関心
- I-4. 日・朝・韓・蒙の再評価
- I-5. 吉林省政府の方針
- I-6. 政府の具体的施策

II. 図們江地域開発の再評価

- II-1. 延辺経済の発展
- II-2. 延吉の経済状況
- II-3. 採掘プロジェクトの成果
- II-4. 琿春経済の動向
- II-5. 農業プロジェクトの動向

III. 図們江地域開発の具体的施策

終わりに

はじめに

東北アジア地域は、世界の GDP の 5 分の 1，アジア全体の 70% 以上占めている。東北アジア地域のなかでも東北アジアの中心に位置している図們江地域は、国際社会から一定の注目を浴びる地域となった。琿春を中心とする直線距離が 500 キロメートル未満の周辺は、ロシア、北朝鮮、日本、韓国の四カ国に 10 箇所の港湾が存在している。したがって図們江は、地理的にも、資源の面からも東北アジア国際物流センター及び最も工業化の潜在力を有しているのである。

政界、経済界、学会そして州政府、省政府及び國務院は、図們江地域開発の必要性が再燃し、その中心都市延辺への計画もまた再提起されている。

本論はなぜ図們江地域開発が再燃しつつあるのか、その背景、特徴、対策の順で分析しあわせて将来展望を行うことに目的がある。

* 金向東，厦門大学東南アジア研究センター，国際関係学院助理教授

I. 図們江地域の新しい開発計画

I-1. 国家政策の展開

中央政府は、1992年琿春を対外開放の都市（国家レベル）として認定し、國務院に調整指導グループを設立した。1994年に吉林省政府は、図們江地区開発弁公室を設立した。1999年には図們江地域開発企画を国家計画委員会が承認した。さらに吉林省政府も企画綱要を作成した。企画には確かな構想を組み立てており、その内容は「一核・両軸・両帯」である。「一核」は琿春核心区、琿春辺境経済合作区、琿春輸出加工区、中ロ互市貿易区など三区が含まれる。「両軸」は、琿春税関—ザルビノ港であり、圈河—羅津港である。「両帯」はモンゴル国—口朝港湾地域の産業ベルト地帯と牡丹江—延辺—丹東ルートの産業ベルト地帯を指す。

胡錦濤国家主席は2007年1月28日吉林省を視察した時に次のように指示した。「吉林省は条件が整っている地域に改革開放、技術革新面で率先して行動し、吉林省全体の発展を引っ張ってほしい」。2007年4月10日温家宝総理の訪韓時にも次のように指摘した。「できるだけ早い段階で中韓との Win-Win 関係を築き、両国の自由貿易協定（FTA）の早期締結のため礎を築く」ことである。国家の指導者たちの相次いだ発言に示されるように、吉林省は長春—吉林—図們江開放先導区を建設し、東北地域の対外開放の新たな門戸を築き、内陸省の対外開放の新たなモデルを創り上げなければならない。2007年8月吉林省委、省政府はそれぞれ温家宝総理に上記の考えを報告し、温総理は国家發展改革委員会に統一的な計画を行うように指示した。『中国図們江地域開発企画綱要—長吉図を開発開放先導区に』（以下『企画綱要』と略す）は、2008年國務院の指示を受け、国家發展改革委員会により組織編成し、実施した国家級地域發展戦略企画である。

2007年8月23日、韓長賦省長の率いたチームは国家發展改革委員会の馬凱主任に先導区構想に関するレポートを提出し、馬主任も同レポートを高く評価した。同年の11月27日に国家發展改革委員会、商務部、科学技術部、外交部、國務院東北振興弁公室の関係者調査チームを結成し延辺を視察した。その結果によると、長吉図（長春、吉林、図們江地域）の開放が先導区を活性化させ、8プロジェクトの枠組みもきちんとしており、構想は明瞭で成熟しているという評価であった。

その全体構想は、琿春を開放の窓口とし、延龍図（延吉、龍井、図們）の開放は主に長春市、吉林市に依存して行い、辺境と後背地を連動する形で開発することが、強力な経済ベルト地帯の形成に努め、図們江地域開発を促進し、対外開放の新たな地域を作り出す。2009年には国家戦略に格上げするため全力を尽くす。吉林省と延辺州は国家發展改革委員会の指示と要求の通り『図們江地域開発企画綱要』を2008年10月に『建議文本』を完成提出し、2009年8月30日に國務院は吉林省と延辺州の『企画綱要』²⁾をつい承認した。

長吉図開発開放先導区が図們江地域開発の主体として国家戦略に組まれたことは、東北アジア地域協力を新たな契機となるだけでなく、吉林省及び延辺州の発展の大きな契機になる可能性がある。

2007年8月20日國務院東北振興弁公室が公布した『東北地区振興企画』によれば、東北地区を比較的高い経済成長地域に建設し、国際競争力のある機械製造業基地と、中国の新素材とエネル

ギー保障基地とする。また中国の重要な穀物と農牧業生産基地，国家研究開発とイノベーション基地，国家生態系安全の重要な保障区にし，東北アジア地域の全面振興を実現する。これは言い換えれば図們江地域開発開放に対し政府が保証，促進，サポートの役割を果たすことである。

『企画綱要』の発展目標は二段階に分かれる。第1段階は，2012年までに琿春市の経済規模を4倍にするとともに30万人規模の都市にする。長吉図地域の経済規模を現在の2倍にし，森林カバー率を60%以上に保ち，輸出入総額も大幅に増大し，東北地区で新たな経済成長地に浮上させる。第二段階は，2020年までに図們江地域の対外開放レベルを一層高め，特色産業システムの競争を形成し，イノベーション能力を国内先進地域のレベルまで到達させる。長吉図地域の経済規模も4倍以上とし，東北地区経済発展の重要な成長基軸とする。

I-2. 全国人民大会の方向性

2007年8月6日に中国図們江地域開発項目協調小組専門家諮問座談会が延吉で開催した。この会議で全国人民代表大会常務委員会蔣正華副委員長は，次のような見解を示した。図們江地域開発を全力で推し進めることは，中国と東北アジア各国との経済・貿易協力を広める経路である。経済発展と社会安定の面から見ても，東北振興と東北アジアの発展は不可分である。具体的には次の六つの統一計画とする。

第一に，各地域での利益要求に対する統一計画である。この点は最も重要である。直接的利益がないとすれば，その他の国は同プロジェクトに関し興味を持たない。具体的な利益共有法案が必要であり，その中には港湾などが含まれる。我々は豊富な民間経済資源を有しており，各方面の利益をしっかりと研究し調整する。

第二に，二カ国と多国間協力に対する統一計画である。元来東北アジア各国の信頼関係が乏しい。そのゆえ，重点を二カ国協力を力に置く必要があり，同時に多国間協力も推進すべきである。二カ国協力が一定レベルに達した時にこそ，多国間協力がもっと容易に行える。

第三に，全面開発と重点協力の関係に対する統一計画である。自由貿易区は国際的な開発潮流に沿っており，重点開発領域を掘り出す必要がある。例えば，エネルギー・鉱山開発・交通インフラ建設などであり，利益協調を強め，突破口を探し出す。

第四に，国家投入と地方投入の関係に対する統一計画である。地域角度から言えば，国家サポートを希望することは理解できるものの，最も根本的なことは中央が提出した政策を如何に運営するかである。政策研究をしっかりとすることが半分の労力で倍の成果を上げられる。

第五に，代表企業を動かすのと多次元投入関係に関する統一計画である。現地の自然メリットに合わせ，一部大型代表企業を誘致し，同時に多次元投入を強化する。社会流動資金が豊富にあり，商業銀行，その他の投資熱も高い。

第六に，自主開発と外部推進の組み合わせに関する統一計画である。一方では既存の豊富な資源を利用し，自主開発に立脚する。他方ではメディア宣伝を拡大し，諸方面の関心を引き付ける外部からの推進である。

全国人民大会が図們江地域開発を議題とし，さらに詳しく図們江地域開発プロジェクトに対し進言したことは初めてであった。

I-3. 国連関係機構の関心

阿吉盟（Sajjad Ajmal）国連工業開発機構（UNIDO）駐中代表によれば、2007年9月国連工業開発機構の事務局長カンデ・ユムケラー（Kandeh Yumkella）は延辺州書記の招待に応じ、阿吉盟をはじめ国連工業開発機構の投資と技術促進事務所（北京）所長の胡援東、国連工業発展機構の投資と技術促進事務所（ソウル）所長南相旭、馬健国連工業開発機構駐中代表事務所プロジェクトコーディネーターとともに延辺を訪れた。琿春市の開発に関して、国連開発工業発展機構は琿春で携帯電話付属品プロジェクト建設を支持した。また南相旭所長の今回の延辺訪問は更なる協力機会の検討しており、帰国後延辺に大規模な投資を韓国政府に呼びかけるためである。

ナタリー（Natalie）国連開発計画（UNDP）図們江事務局長は、2008年第三回中国・延吉国際貿易商談会に出席するため延吉に訪れ、開会式式辞での言葉および8月28日に吉林省委員会常務委員・州委員会書記である鄧凱と会談し、次のような見解を示した。「中国吉林省並びに延辺州は図們江地域開発の中核にあり、ここ数年中国中央政府及び地方政府は図們江地域開発に積極的な貢献を行って来た。今後、省及び州はUNDPとともに同地域の繁栄のために力を尽くすことを表明した」。6月27日、駐瀋陽の日本・韓国・ロシア・北朝鮮の領事館館員が延辺を視察し、吉林省委書記王珉、省長韓長賦と相次ぎ会談した。

さらに、ナタリーは延辺州長と会い、次のように述べている。「UNDPの推進と図們江地域各国の共同の努力の下で、大図們江地域開発は比較的大きな進展を遂げた。しかしその進展はEU諸国も含まれたその他地域国際協力状況と比較すれば、また大きな遅れを取っており、多くの問題解決が待っている。UNDPもこの方向に向かって努力している。中口通関便利化、琿春・カムショーバヤ鉄道、中蒙鉄道及びアクセス道路建設問題に関して、UNDP 図們江事務局は果たすべき役割を果たし、関連国家との意思疎通と協調をさらに強化し、一日早く問題解決に努める³⁾」。同時に、図們江地域各国のビジネスコンタクトを強めるため、UNDP 図們江事務局に延辺特派員を派遣し常住することを提案した。

I-4. 日・朝・韓・蒙の再評価

中日蒙三極委員会が主催、中国図們江開発弁公室も参加し、琿春市政府が引き受けた中日蒙東部地域開発国際フォーラムが2007年11月10日に閉会した。このフォーラムの主旨は次の通りである。第一に、モンゴル国東部地域（チョイバルサンを中心に）から中国内モンゴル東部（興安盟、阿爾山）、中国吉林省（白城市、長春市、琿春市）を経由し日本海西海岸諸県に至るベルト状経済区の構築である。第二に、中蒙から日本海関連港湾へ繋がる東方大回廊の建設を加速する。第三に、琿春のベルト状経済区物流センタープロジェクト建設を稼動するなどである。最終的には『琿春協定』に署名した⁴⁾。

2007年12月25日に中・朝・露地域間鉄道貨物運輸会議が図們で開き、三カ国代表が図們一豆満江一ロシアハサン国際鉄道貨物運輸問題に関して協議を行い、最終的には北朝鮮清津鉄道局副局長韓哲誥、ロシア極東鉄道局副局長カラワエフ、瀋陽鉄道局付明吉により協議書に調印した。同路線が開通すれば、図們通商口の貨物取扱量を大いに高めることができる。2007年7月18日に琿春ロシア工業団地及び東北アジア輸送回廊開発フォーラムが琿春において開催し全国開発区協会会長劉培強、延辺州常務副州長高勇、ロシア北方極東問題下院副議長イバノビッチ、韓国世達株

式代表などが会議に出席した（肩書きは全て当時の肩書き）。趙伝君は次のような見解を示している。各国は協議を通じ「ヨーロッパ・アジア大陸促進協調委員会」を設立し、ヨーロッパ・アジア大陸橋建設の関連問題を促進するため研究、論証、協調する必要がある。協力における難題と矛盾を解決することは、同プロジェクトを本当の意味での東北アジア地域交通運輸協力議題に取り入れることができる。⁵⁾

図們—豆満江—ハサン国際鉄道全長は126キロであり、1992年4月に試験運転を開始した。その年の貨物取扱量は20万トンに達した。主な輸出入貨物は肥料と鋼材などであり、後に停止になった。同路線が再開すれば、中朝露三カ国にとって利益になるだけでなく、図們江地域開発の推進に積極的な役割を果たすことができる。

『2009図們江地域投資促進並びに琿春韓・日・香・露貿易団地経済技術協力商談会』が、2009年8月11日、長春コンベンションセンターで開かれた。同会議の趣旨は図們江流域の合作を拡大推進し、長吉図開発先導区の建設と琿春の韓・日・露・香工業団地での経済技術合作を推進することにある。

ヨーロッパと韓国、日本、ロシア、アラブ諸国、香港などの国（地域）と吉林省に投資した世界500大企業の代表300人余りが、この会議に参加した。また同会議で、琿春国境合作区管理委員会の代表と北京鑫天銀投資有限公司の代表が投資総額100億元の『東北アジア国境貿易センター』プロジェクトを締結し、琿春国境経済合作区内に国際貿易、レジャー観光、国際教育、文化創意、生産加工業、生態居住など6つの建設計画である。プロジェクトが建設された後は、毎年21億元の販売収入を見込むという。プロジェクトは2017年に完工される予定である。『東北アジア国境貿易センター』プロジェクトは北京鑫天銀投資有限公司が図們江地域開発の今日的意義を捉え、琿春の比較優位に立脚し、東北アジア経済協力に着目した戦略的投資である。

2008年9月2日吉林省委常委委員・延辺州委書記である鄧凱が長春コンベンションセンターで李海瓚韓国前首相と会見した。前首相は以前にも延辺を尋ねたことがあり、延辺の経済状況に対しある程度は把握している。またこの二年間多くの韓国人が延辺に来て投資を行っている。ソフト開発の面において、中韓両国はさらなる協力余地を持っており、今後一層の協力関係を築くことが望ましいとの見解を示した。

同年8月28日に李龍熙延辺州長は2008年第三回中韓延辺ITフォーラムのゲストとして参加した韓国大統領科学技術特別補佐官朴賛謨と会見した。朴補佐官は、「自分は延辺のIT産業の発展をずっと注目し、この数年延辺のIT産業は著しい発展を遂げ、同フォーラムがまた両地域の間により緊密な協力関係に繋がった」。同氏はまた延辺IT産業の発展に一層の貢献をすると同時に、延辺IT産業が大きく発展することの期待を表した。

2009年8月28日『2009中韓（延辺）ITフォーラム』が延吉・白山ホテルで開催された。その趣旨は、「国際的及び地域間の交流を拡大し、中韓両国を主軸とする東北アジア地域の国家間のIT分野の協力を展望し、東北アジア地域のIT企業に相互協力と交流の踏み台を提供する」。今回のフォーラムには、国内の色々な地域と韓国の大学、業者、研究団体が参加したIT業界の人々と学者、専門家たちが集まり、中韓両国を主軸とする東北アジア地域の情報産業分野の交流と合作及び共同の発展と関連して、多様な見解、建議、提案を発表した。また同日、商談会のもう一つの重要な内容とされる『中韓ベンチャーフォーラム』が、延辺国際会議展示センターで開催され

た。全国で初めて開かれるものとして注目される『中韓ベンチャーフォーラム』は、韓国ベンチャー協会が主催し、延吉市商務局と延吉 INKE（ベンチャー協会）が引き受ける形で、延吉生物科学技術分野の資源、労働力市場などの強みと国外の資金、技術、人材、情報などの強みを広範囲で協力し合い、企業と科学研究機構のために相互交流ができるようにすることがその目的であった。

I-5. 吉林省政府の方針

2005年11月に王雲坤吉林省委書記（当時）は図們江地域開発継続の必要性を強調した。2005年から2006年に省政府は図們江地域開発開放について現場会議を2回琿春で開いた。そこでは省委・省政府の決定と対外関係建設の推進力となった。商務部、吉林省政府が共同主催の「東北アジア投資貿易博覧会」は、2005年から2009年まで計5回開催した。2008年の博覧会は1万人以上のバイヤーが吉林省長春市に集まり商談が行われた。開幕式には國務院副総理王岐山が出席した。2008年第4回の博覧会において、対外貿易契約額は4.75億ドルに達し、前回より15.85%上昇した。国内貿易契約額は13.1億元で同3.15%上昇した。投資は国内外の171プロジェクトの契約が結ばれ、投資総額も1060億元に達し、前回より36.9%増加した。そのうち、域外からの直接投資は1008億元であり、外国直接投資25.7億ドルが含まれている⁶⁾。

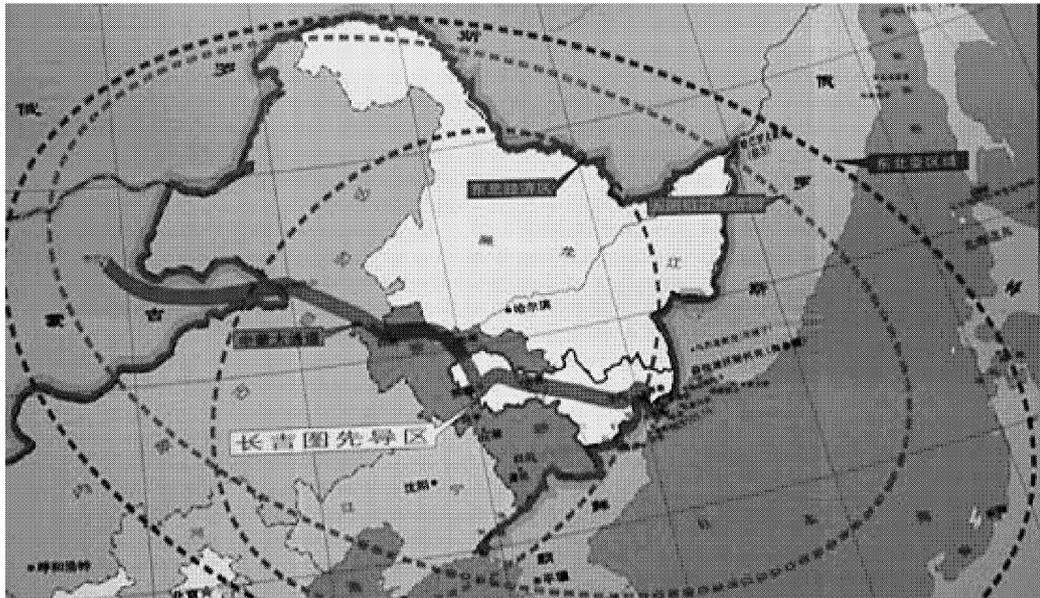
2009年9月1日、第5回中国吉林・東北アジア投資貿易博覧会の大会宣言は國務院副総理李克強によって行われた。今回の博覧会では、東北アジア国家企業館と北朝鮮、モンゴル、ロシア国家地域館、台湾館、国際経済合同館、国際および香港・澳門企業館、国内企業館と吉林・深圳企業館など7つの展示館に2190の展示会場と876の国際展示会場が設置され、会場総数の40%を占めた。世界500大企業の9社を含む世界的企業30社が参加、中央企業8社を含む国内有力企業304社が参加し、計5万人のビジネス関係者が参加した大型博覧会であった。今回の博覧会で吉林省と国内外とで計252投資プロジェクト契約を結び、プロジェクト総投資額は1711.68億人民元に達した。この内、域外から受け入れた資金総額は1637.38億元、それぞれ前回より61.5%、62.4%増えた。契約プロジェクトの中1億元を超えるプロジェクトが236件であり、プロジェクト総数の93.7%を占める⁷⁾。

博覧会の特徴として、取引は対外貿易重視であり、投資は国内資本が外国資本を大きく上回っていることである。2007年、2008年吉林省経済工作会議と省人民大会・政治協商会議の「两会」で省書記、省長の報告は、図們江地域開発の加速させることを提示し、さらに2007年2月に省政府は『図們江地域開発の加速に関する具体的な意見』という文件を発行した。これは過去の経験をふまえつつ、今日の情勢分析を行い、図們江地域開発の全体ビジョンと具体的な任務と施策であった。

I-6. 政府の具体的施策

最近10年来、図們江地域開発は緩やかながら進展している⁸⁾。具体的には以下の三点に現われている。第一に、協力の仕組みが改善し、国際的なプラットフォームが形成しつつある。第二に、健全な政府関連システムが形成しつつある。第三に、対外開放の環境が整えつつあり、道路、港湾などのインフラストラクチャ整備が含まれる。すでに中国琿春からロシアのザルビノ港を経由し

図1. 中国図們江地域全体開放企画



(出所) 振興東北網: <http://chinaneast.xinhuanet.com/>

て韓国の束草と日本の新潟ルートが開通し、韓国の観光客はソウル—束草—ザルピノー—琿春、日本の観光客は東京—新潟—ザルピノー—琿春経由で延吉に入り、長白山を観光登山する。ソウル—延吉、東京—延吉（北京で乗り継ぎ）間の便を利用した空路での観光ルートよりも格安な料金であるため、利用客が増大している。また2009年の5月中下旬、北朝鮮・清津で図們市政府と北朝鮮咸鏡北道観光局、北朝鮮咸鏡北道清津鉄道局、図們市図們江国際旅行社による、中国図們—北朝鮮・南陽、清津、七宝山鉄道列車観光コース協力協議を締結し、図們—北朝鮮・南陽、清津、七宝山をつなぐ列車が開通した⁹⁾。2009年6月には和龍・古城里通商口と琿春・沙坨子通商口が通商口昇格検査に合格し、国務院の批准を経て、国家級通商口に昇格した¹⁰⁾。古城里通商口と沙坨子通商口の昇格で、延辺州の通商口の対外通商機能がより一層明確になった。地方通商口である琿春・沙坨子通商口と和龍・古城里通商口は、延辺の対外交流と協力を寄与した。しかし、この二つの通商口の位置づけが低いため、対外交流の発展を制限した。そこで延辺州政府は、インフラと付帯施設の整備を行い、国家級通商口となった。延辺州の和龍市にはもう一つの対朝通商口南坪がある。2009年8月29日投資総額11.9億元の和龍—南坪間の鉄道プロジェクトが和龍市と15キロ離れている龍城鎮において工事が正式に始まった¹¹⁾。同鉄道は吉林省の東北東部鉄道二道白河—和龍に続くもう一つの重点プロジェクトである。このプロジェクトの建設は東北東部鉄道通路と配置に対し一層合理化し、地域交通環境の改善、沿線資源開発などに期待される。同鉄道路線が開通すれば、和龍市の南坪、古城里二つの対朝通商口と東北東部鉄道と連結し、中朝貿易と図們江地域開発の推進にとっても積極的な意義を持っている。

既に延吉空港建設、延辺の11箇所対外通商口の建設と国境を連結する道路建設も稼働している。このほど吉林省政府は以下の八つの共通認識を有するにまで至った。第一に、図們江地域開発の

方向と目標を堅持すべきである。図們江地区国際開発構想は現実的意義をもっており、この開発は中国が東北アジア地域協力に参加し、しかも主導する重要なプロジェクトであり、東北振興及び吉林発展の重要な戦略である。この戦略の実施は中国と吉林省、さらに延辺の発展にとって重要な歴史的、現実的意義を有する。第二に、図們江地域開発を客観的に歴史と現状を分析し取り組む必要がある。図們江地域開発以来、各方面のプロジェクトはそれなりに推進されて来た。もちろん当初の目標には達していないものの、吉林、延辺の発展に重要な役割を果たした。第三に、国内外の経済政治情勢を正確に把握し、図們江地域開発のチャンスをつかむ必要がある。当面の国内外の情勢変化は図們江地域開発を加速するため新しい歴史チャンスを提供している。第四に、科学的、理智的、実務的に図們江地域開発を推進しなければならない。第五に、できるだけ速やかに上から下への仕事を新しい局面へ推進する必要がある。上の仕事と国際協調を強化し、できるだけ早く中央政府の重視を形成し、強力な姿勢で行動し開発気運を高める。これは図們江地域開発の必要条件である。第六に、速やかに吉林省委、省政府の要求を実行しなければならない。さらに積極的に中央政府の重視と支持を得ると共に、吉林省と延辺はみずから図們江地域開発をより高い戦略地位に高めなければならない。第七に、琿春の開発開放を高度に重視し、琿春の開発と建設を進めなければならない。大プロジェクトの資金を増加し、技術と人材の導入の強度を強化し、産業発展を加速させる。第八に、世論宣伝を強化する必要がある、図們江地域開発に有利な世論雰囲気を作り出さなければならない。このような共通認識を持ち粘り強く交渉の末、2009年8月30日国務院は『中国図們江地域開発企画綱要—長吉図を開発開放先導区に』（図1参照）を承認した。「国務院は既に長吉図を先導開発区として批准した。今後、吉林省のビジネスチャンスは無限となろう」。これは9月1日、吉林省委常務委員であり常務副省長の竺延風が南湖ホテルで世界500大企業、中央の大型企業代表及び国内代表団との会見において披露したものである。同企画を2009年11月17日に国務院により正式に国家級開発に昇格させたことを CCTV 1チャンネルが報道し¹²⁾、中国としてははじめて国境地域で実施した国家級開発区である。

したがって90年代の図們江地域開発の第一ラウンドにおいて延辺は「主動参与」であるとすれば、10年後の今新しい図們江地域開発のブームの中で延辺は「主導発展」の役を多く演じることになる。

II. 図們江地域開発の再評価

II-1. 延辺経済の発展

これまでの開発ブームと異なり今回の図們江地域開発の再評価は、内的要因によるものである。1992年以来、延辺の固定資産投資累計額は1250億元に達し、林産加工、食品・タバコ、医薬、エネルギーなど4大基軸産業を中心として、繊維アパレル、新型建築材料、観光とサービス産業など新たな産業構造が形成されつつある。2007年までに、延辺州は750社の対外貿易企業を有していた。建設プロジェクトは861件、前年より41.4%増であり、2009年新しいプロジェクト建設は591件、前年より186件増えた。

2008年延辺州地域総生産は前年比18%増の375億元に達し、1993年より10.4倍に増えた。財政

収入は前年比17.9%増の64億元であり、93年より7.6倍に増えた。その内地方レベルの財政収入は30.6億元で、前年より11.1%増えた。一般消費財小売高は前年比27%増の181億元に達する。全社会固定資産投資額は420億元であり、前年比42.2%増加した。1億元以上のプロジェクトは73件であり、延吉巻きタバコ工場移転、延辺天池工貿有限公司の120万トンペレタイジング、汪清龍騰エネルギー開発有限公司の油頁岩三期工事¹³⁾、紫金鋁業集団株式有限会社（以下紫金鋁業）の選鋁工場の拡張工事などのプロジェクトが完了し生産も始まっている。長春-図們高速道路、東北東部の和龍から二道白河までの道路は開通している。敦化塔東鉄鋁、図們-琿春高速道路、汪清-延吉一級道路、延吉熱電工場などの10億元以上のプロジェクトが推進している。敦化抽水蓄能発電所、吉林-図們高速鉄道などの大型プロジェクトの建設も進展している。2008年工業投資額は178億元、前年より59.5%増加し、生産高は345億元、同26%増加した。特に著しい発展を遂げた分野は食品・医薬、林産とエネルギー鋁産業である。中露日韓陸海連合ルート¹⁴⁾の試航運転も行われた。2008年の『東北アジア投資貿易博覧会』、『延吉・図們江地域国際投資貿易博覧会』¹⁴⁾を媒介として、96億元の国内投資を導き、前年比41.5%も増加した。外資利用額は1.1億ドル、同22.3%増加した。個人の外貨収入も8億ドルに達した。各開発区と産業クラスターにおいて工業付加価値額は78億元に達し、前年より52.3%増加した。延辺州の新興開発区には「七通一平」¹⁵⁾（seven connections and one leveling）のインフラプロジェクトを完成し、紫光古漢集団¹⁵⁾など11社が既に開発区に入り生産を開始している。琿春においては韓国、日本、ロシアなど国際工業団地建設を推進している。2008年の国内外観光客延べ478万人、前年比21%増加し、観光収入は45億元、同20%増加した。

II-2. 延吉の経済状況

2008年の延吉市のGDPは141.7億元で、前年比15%増加した。財政収入は28.9億元、同12.5%増え、固定資産投資は126億元、同39%増加した。対外貿易は1.9億ドルで前年比20%増え、2006年から全国経済百強県（市）に入った。延吉は「五力」¹⁶⁾を武器に吉林省で「工業強市」となり、「実力延吉」を築くため、「現有の税収入千万元以上の10社企業をさらに成長させ、また新たな千万元以上の税金を納められる企業を10社育つ」と言う主要内容としての「3151」¹⁷⁾プロジェクトを全面実施し、基軸企業の育成を行った。全市規模以上の工業生産高が2005年の51.22億元から2008年の110億元にまで上昇し、3年間で2倍になった。同時に食品、医薬、機械製造、ハイテクなどの主要な産業が成長し、多元化工業製品の枠組みを形成しつつある。つまり、投資主導による「潜在力延吉」、サービス業を梃子に「活力延吉」、開発と開放による「効力延吉」、環境の最適化による「魅力延吉」を築くことである。

延吉を中心地域として延龍図（延吉・龍井・図們）は統合し、2020年の延龍図人口が120万人～125万人になり、都市人口は105万人～110万人、延吉から朝陽川だけで70万人から90万人に達すると予測している。都市人口の増大は、雇用労働力の確保と共に消費市場の拡大する契機となり、延吉の経済発展の基礎を形成することになる。

延龍図の産業機能の位置付けは、第一、東北アジア図們江地域の重要で先進的な製造基地、第二、中国の重要な観光基地、第三、東北地区の重要な食品、製紙、少数民族用品など軽工業基地、第四、東北地区の重要な医療と薬品生産及び木材加工基地、第五、吉林省において重要な国境貿

易サービス基地と東部地区のビジネス物流基地、第六、延辺ハイテク産業基地、延辺都市産業基地、図們江地域本部集中区にし、東北アジア図們江地域において国際競争力と地域に連関する産業システムを構築する。この計画が推進すれば「延龍図」は、東北アジア図們江地域開発の中で戦略的地位を確立することになる。延吉開発区は延辺州開発区の機関車の役割を果たし、吉林省開発区の中でも先導する都市となっている。延吉経済開発区には延吉巻きタバコ工場を代表に、秀愛食品、娃哈哈啓力飲料などのブランド食品加工業が入っており、農業機器、医療機器、機械製造業だけでなく、薬業、保健品などの医薬生産流通企業が入っている。また、佳娜多信息、神豊情報を主としたIT産業、龍盛汽車、現代自動車を主体とした4S店¹⁸⁾も入っている産業発展構造となっている。

2007年に、延吉経済開発区では新規プロジェクト、継続プロジェクトをあわせて55件、投資額は40億元に達しており、この内31.5億元を工業プロジェクトに投資した。2008年の延吉経済開発区は76億元に達する生産額を実現し、最高額を記録した。2008年末現在まで同経済区に入った企業は301社であり、企業の生産高は63億元、税金は15.21億元であり、区内総生産が年平均25%と高い成長を続けている。2008年に140プロジェクトを呼び込み、投資額は205億元である。開発区は「153」プロジェクトを実施している。すなわち、第1はIT産業群を形成し、生産高25億元、IT企業を100社に拡大させることである。第2は6.6億元を投資し年産10万のグラスファイバープロジェクト、18.7億元を投資したコージェネレーションプロジェクトと還元鉄プロジェクトなど5億元以上のプロジェクトである。第3は喜来健、延吉巻きタバコ工場と田植機製作所など三つの代表企業を梃子に産業連携を強めたことである。

II-3. 採掘プロジェクトの成果

延辺経済が持続発展を続けるためには、資源を徐々に発見、開発して行かなければならない。幸い延辺は鉱産物が豊富で、93種類の鉱物を有し、その内エネルギー鉱物が10種、金属33種、非金属48種、ミネラル・ガス鉱物2種であり、吉林省で発見された鉱物の7割を占めている。既に分かっている石炭埋蔵量は8.8億トン、金埋蔵量124トン、鉄埋蔵量10億トン、モリブデン埋蔵量100万トン、銅埋蔵量32.1トンである。石炭、モリブデン、金、銅、タングステン、鉄、ニッケルなど7種の鉱物理蔵量を現在価格に換算すれば5400億元（再処理による潜在価格を含まない）に達する。2007年延辺において建設中のプロジェクトは1617件、このうち新規プロジェクトが1264件である。これらのプロジェクトの中に鉱山開発会社が含まれている。2009年1月から9月までの九ヵ月で、延辺州への固定資産投資は479.8億元に達し、2009年計画投資の82.7%を占めた。建設中のプロジェクト2130件、2007年より31.7%増大し、そのうち新規プロジェクト1737件、同37.4%、前年比では57.9%増えた¹⁹⁾。2009年新規プロジェクトが急激な増えたことは、すでに第五回目の国際貿易博覧会である『東北アジア投資貿易博覧会』、『延吉・図們江地域国際投資貿易博覧会』などで国際的影響力が強まり、また図們江地域開発が国家戦略に格上げになったことにより、図們江地域開発が国内外投資家の注目と関心を呼んだからである。

2007年5月12日、延辺州政府と通化鋼鉄集团公司など6社が『合作と支持議定書』に調印し、敦化塔東鉄²⁰⁾開発主体が明確になった。2007年7月17日には、吉林天池鉱業公司120万トンベルト化プロジェクト定礎式を行った。2008年8月8日、安図両江鎮西江村に位置している吉林省

金龍經貿有限公司が投資している金龍鉄鋼プロジェクトの第二期プロジェクトの定礎式が行われ、第一期プロジェクトと合わせれば総投資額は3億元に達し、精鉄粉の年産も50万トンに達する。プロジェクトが完成すれば一年の売上高は5億元となり、5千万元の納税が実現できるという。²¹⁾ 2007年6月11日に、琿春紫金鋳業有限会社など5社の共同出資により、琿春楊金沟タングステン鋳の開発主体が確立した。同プロジェクトの建設により、中国北方地区にタングステン鋳のない歴史に終止符を打った。2007年11月27日に錦州新華龍実業集団と延辺州が協議書に調印した。²²⁾ 国内最大のモリブデン産品を生産する企業の一つである同社は部分的或いはすべて延辺に移転する計画である。2007年に瀚豊鋳業がかつての天宝山の銅・鉛・亜鉛鋳の繁栄を取り戻し、2007年から1500万元の税金を龍井市政府に納め、龍井市財政の支えになった。汪清龍騰エネルギーの油頁岩鋳採掘プロジェクトも2007年から1000万元の税金を汪清県政府に納め、現地政府の財政を支えている。さらに龍井市徳新卿の天然ガス採掘プロジェクトが完成すれば100万立方メートルの天然ガス生産が可能になる。建設中の安図星島綠色飲品会社の30万トンミネラルウォータープロジェクトが完成すれば、売上高は4千万元に達する。今後も延辺州は天然資源を基軸に「採掘プロジェクト」の発展に力を入れる同時に、エネルギー鋳産の深加工（付加価値の高い商品）と総合利用を行い産業連関を強めなければならない。延辺のGDPは2011年になると570～600億元に達する試算があり、そのためには年成長率も18.6%を必要とする。このような高い成長率を維持するためには鋳工業に頼らざるをえない。延辺の「採掘プロジェクト」は規模が大きく、開発数も多く、しかも延辺州の全ての市県郷まで及ぶ特徴を持っている。

II-4. 琿春経済の動向

琿春市は北朝鮮及びロシアと国境を接している辺境都市である。琿春市には北朝鮮との間に二つの国境税関があり、ロシアとの間には鉄道と道路のそれぞれ国境税関がある。中国政府は1992年9月に国家レベル開発区として辺境経済合作区を琿春に設立した。2000年4月中国政府は琿春辺境経済合作区の構内2.44km²に国家レベルの「輸出加工区」を設置した。これは中国政府が最初に認定した15の「輸出加工区」の一つである。2001年2月1日に9.6ヘクタール規模の中口互市貿易区（相互貿易区）が設置された。これらの設置は琿春として全国でも先行する「三区合一」の体制であった。また日本工業団地、韓国工業団地、香港工業団地、ロシア工業団地を相次ぎ設置しており、「三区四園」の対外開放体制を形成している。四つの対朝、対口の道路・鉄道国家一級税関を有しており県レベル級の通商口群が建設されている。現地でのビザ発給業務、通関などを実施しており、通商口の累計貨物の通過量、客の通過量はそれぞれ272.8万トン、3794万人である。工業総生産高は62億元、30年前の238倍であり、平均成長率は20%強である。さらに1億元以上のプロジェクト17件、10億元以上のプロジェクト4件を建設した。第1段階はエネルギー鋳産、繊維アパレル、木材製品、エレクトロニクス、生物医薬、農林水産品など六大産業基地を形成した。2006年以来、琿春の域外から導入された資金は累計で37億元であり、プロジェクト数も244件、その内1億元以上のプロジェクトが17件に達した。小島衣料服装有限公司は日本の小島衣料が100%出資した外資企業であり、2006年1月創業してから既に年間輸出額は1.8億ドルに達する企業に成長しており、上海と武漢の企業を琿春に移転しつつある。韓国の特来針織会社が琿春に進出してすでに10年以上経ち、年間売上高も2.3億元に達している。琿春は新しい

国際開発モデルを作り出し、ロシア工業団地の建設は、ロシア人が中国において工業団地を創立する先例を創り出し、ロシア、イギリスなどを始め多くの企業が工業団地に進出する契機となった。琿春市経済は地域優位、資源優位と政策優位のなかで新たな発展段階に入っている。吉林省42県（市区）の総合ランキングでは2005年の22番目から2008年に10番目となり、3年で順位が12上昇したことになる。2008年は世界金融危機に見舞われたにもかかわらず、琿春市のGDPは前年比30%近い53億元に達し、財政収入は同30.9%増の5.5億元を記録した。輸出入総額も6億ドル強であり、改革開放前より20倍近くまで成長した²³⁾。近年来、琿春紫金鋁業²⁴⁾、裳邦尔紡績、小島衣料、興業地板、森林王木業などの国内外企業は琿春に進出し、生産力増大をもたらした。2006年に同市は吉林省の十強工業経済に位置するようになった。特に投資総額26.8億元大唐琿春発電所の二期プロジェクト生産が始まっており、総発電力は80万キロワットに達する。吉林省最大の炭鋁である琿春鋁業集団の年間生産能力は400~500万トンである。宝力集団²⁵⁾は10億元を投資して携帯電話生産ラインの第一期プロジェクトが完成しており、1日の生産量は3000台であり、年間生産高は15億元に達する。2007年9月第三回東北アジア投資貿易博覧会でアメリカママリグループ（United States Ma benefit Group）と琿春市東林経貿有限公司が中朝「路港区（道路、港湾、物流区整備）」プロジェクトに総額30億元の契約を結んだ。また老龍口水利プロジェクトなどもあり、これらのプロジェクトは琿春工業化の負荷能力を大幅に高めた。第一次開発波と本質的な違いは、企業の増加が結果的に物流発展を引き起こしたことである。

15年来の琿春開放は、以下の三つの大きな特徴がある。

第一に、通商口のプロジェクトが進んでいる。15年来、相次ぎ琿春を経由してロシアのザルビノ~韓国東草~新潟までの貨客航路、北朝鮮羅津~釜山（現在は停止）までのコンテナ航路が開通した。現在国家一類通商口である琿春道路、鉄道税関がロシアと貨客ともに通関を実現、国家一類通商口である圈河、沙坨（2009年8月に国家級に昇格）税関も北朝鮮と貨客ともに通関を実現した。また琿春~ロシアマハリノ間の国際鉄道の運航も開始した。中朝の「路港区」プロジェクト建設、中口の「路港関」（道路・鉄道・港湾・税関）プロジェクトも積極的に推進している。

第二に、産業基盤が整備されつつある。15年間、国内外から累計で101億元の資金が導入された。建国以来延び最大の投資プロジェクトである琿春発電所二期拡張プロジェクトが送電を開始し、琿春鋁業集団改造拡張プロジェクトが完成すれば、年間石炭生産量が450万トンとなる。また6億元を投資した紫金鋁業会社のプロジェクトなど大型プロジェクトが琿春に投資を行っている。

第三に、インフラが整備されつつあることである。2008年まで琿春市の累計固定資産投資額は184.86億元を実現し、都市総合サービス機能が著しく増強している。2008年に長春-琿春間の道路、鉄道が全線開通しており、琿春の各通商口と東寧、綏芬河、黒河などの辺境通商口と全線貫通している。既に完成された水利インフラ整備プロジェクト投資は4.22億元に達した。基本的に「借港出海」の戦略目標を実現した。琿春は既に15カ国の都市と友好関係を締結しており、図們江地域国際投資貿易博覧会、国際観光ワークショップなどの大型フォーラムも成功させ、東北アジア各国との経済、文化交流を展開している。対外貿易がゼロから、今日の輸出入貿易会社が212社にまで発展し、輸出入総額は8億ドルに達するまで成長した。観光業の発展も著しく、琿春からウラジオストク、琿春から羅津などいくつかの国を跨る観光線路を開拓した。防川国家級観

光スポットを建設し、国内外観光客として毎年10万人が同市を訪れる。

II-5. 農業プロジェクトの動向

吉林豊正大豆食品は年間2万トン生産できる大豆分離蛋白加工プロジェクトの建設を行っている。2007年の価格に基づけば、年間生産高は4億元、当年の利潤も1億元に達する。敦化における大豆の作付け面積は7万ヘクタールである。図們涼水鎮に位置している延辺大河実業公司の鹿養殖及び鹿製品の深加工プロジェクトが進行している。梅花鹿（Cervus Nippon）は現在4000頭以上飼育し、近い将来アジアで最大の養鹿場になる可能性がある。和龍市の仙峰国家森林公園プロジェクトも起動しており、龍井市犇福牧業の10万頭黄牛総合加工プロジェクトは、延辺州において45箇所の基地を建設し、1万戸余りの農家が参加している。農村インフラ整備、社会事業、産業発展などのプロジェクト560件であり、既に6.5億元を投資済みである。米、黄牛、人参など延辺の特色ある産業の発展も著しい。州級以上の農業産業化代表企業は142社まで発展した。農民の組織化プログラムが高まっており、各種農村協同組合経済組織が527まで成長した。農業政策性保険を推進しており、耕地面積の48.4%が保険に加入している。さらに専業農場を模索し、農村土地流動制度改革を促進する。2008年の食糧生産は前年比10.2%増の105万トンに達した。5年連続大豊作をもたらした。農村経済収入は71.1億元、前年比10.5%増加した。²⁷⁾延辺は農業資源が豊富であり、今後更なる参入が期待される。

III. 図們江地域開発の具体的施策

東北アジア地域国際関係の改善と各国情勢の好転は、図們江地域開発のため良好な条件を創り出した。国内情勢から見れば、図們江地域開発は新しい歴史的チャンスを迎えている。東北地区が対外開放を実現するためには、東北内地より琿春を経由して日本海へアクセスできる糸口を開拓し、東北全域で大連、琿春が相互協力の下で、全地域を生かせる対外開放パターンを形成して行かなければならない。この場合、延辺は東部地帯経済発展を加速させる新たなエンジンになる。そのためには、以下の施策を必要とする。

第一に、専門機関によって重点プロジェクト建設を確保し、重点プロジェクトを速やかに推し進める。図們江地域開発の指導機構の権限を強め、多国間協力メカニズムの促進に努め、駐露・駐朝事務所を設置する。

第二に、吉林省東部の成長極の建設を加速させる。延吉、龍井、図們は図們江地域開発の核心地域を占めており、延龍図一体化発展戦略を東部地区発展企画に取り組む。中央政府が琿春を西部大開発の重点辺境都市開発に取り入れた契機を利用し、琿春の吉林省対外開放における橋頭堡の確保である。鉱業経済は図們江地域開発のため重要な内的要因の一つである。延辺の10億元以上の大プロジェクトである大唐琿春発電所三期、敦化塔東鉄鉱、琿春タングステン鉱、大河子モリブデン鉱などを建設し、鉄鉱工業団地、金銅工業団地、モリブデン工業団地、ミネラルウォーター工業団地の建設を行う。工業団地建設による鉱産品の加工度を高め、産業クラスターによる鉱産資源を経済増強に転化する能力を高める。

第三に、全国対外通路のボトルネックを突破する。「借港出海」戦略を継続し、中朝「路港区」、中ロ「路港関」プロジェクト建設を加速させる。東北東部鉄道建設を推進する。すなわち、二道白河—和龍（建設済み）—琿春—東寧鉄道建設であり、さらに、ユーラシア大陸を結ぶ最短の線路、アル山（内モンゴル）—タムサグ・ブラグ（モンゴル国の Tamsagbulag）国際鉄道建設の推進、延吉国際空港の改造拡張建設、円滑かつ便利な立体交通ネットワークを形成する。税関の合同検査オフィス、国境大橋、倉庫などの施設条件を改善し、早急に中朝露三カ国の統一的な自由通関、税関検査制度を確立する。

第四に、中露朝蒙国境地域において「国境を跨る経済合作区」²⁸⁾を切り口として、大図們江地域建設のテンポを早める。さらに、「中露琿春—ハサン経済合作区」²⁹⁾、「中朝琿春—羅津経済合作区」²⁹⁾、「中蒙二連浩特—ザミン・ウデ（Zamyn-Uud）経済合作区」の建設を早めることにより、図們江地域開発と東北アジア経済協力を促進し、内地の対外開放を誘引する。

さらに現実的な施策は次の通りである。

第一は、図們江地域開発において国家間協力メカニズムの設立を推進する。国内の国・省・州・市の連携を強化し、東北アジア北部の国際物流センターの建設を推進すると同時に、交通インフラを重点的に建設する。

第二は、積極的な外資導入政策に力をいれ、地域的なつながりから外資は主に韓国と日本とし、香港と台湾も対象となる。

第三は、対外貿易を促進するため、貿易企業をサポートし、新たな成長点として育成する。

第四は、開発区、工業団地の建設テンポを早め、類似産業構造を避け、得意分野を発展させる。各地の産業分布によって、主要産業を開発区に集中させ産業クラスターを形成する。また開発区、工業団地のソフト・ハード両面で更なる改善が必要で、安心して投資を行えるような市場の形成が必要である。

第五は、図們江地域開発に有利な延辺の金融支援システムの設立である。国家図們江地域開発銀行延辺支店、図們江地域開発基金、図們江地域投資会社などを設立し、図們江地域開発の主要プロジェクトの建設資金ボトルネックを解決する必要性である。

第六は、中朝露三カ国による国際特区の建設である。中国の琿春・図們、ロシアのハサン開発区、北朝鮮の羅津開発区、各国ともに一部土地を拠出し共同で図們江経済協力開発と自由貿易区を建設することが必要である。この地域内で独立な免税港群、貿易加工区、物流センターを形成する。協力開発は三カ国による共同管理と運営、地域内の自由通行、相互免税を実施する。一国が合意できない場合は、二国による協力開発を先行し、それから順次に拡大する。こうした方向性は、東北振興計画、日本西部と韓国東部地区の発展、ロシア極東経済の復興に対しても積極的な役割を果たすことができる。

第七は、UNDP の中で中、露、朝、韓、蒙五カ国の協議調整機構を副大臣級から大臣級に引き上げる。またメコン流域サミットシステムを参考に、大図們江地域協力の首脳会談を定例化する。これは図們江地域経済協力、ひいては東北アジア地域経済協力、地域安定にも寄与することになる。

終わりに

図們江地域は中国東北地区の中東部である中朝露三カ国境界に位置しており、地理的に見れば発展可能な地域である。しかし、東北地区は深圳、上海のような経済規模に達していない。東北地区及び吉林省の発展状況を見れば、遼寧省は大連・瀋陽を中心に比較的大きな経済領域を形成しており、黒龍江省は哈尔滨・大慶・斎斎哈尔滨経済ベルト地帯が経済の中心である。しかし吉林省は長春・吉林両市があるが、経済的規模では前者に大きな差をつけられているだけでなく、経済成長率も前者に及ばない。したがって、図們江地域開発チャンスを活かし、積極的に琿春、延吉の経済開発区建設を推し進め、均衡的な成長領域の形成が必要である。吉林省は「両軸交差、双極駆動」（長春・吉林と延吉・琿春）経済体制を構築することによって、吉林省経済発展並び東北振興を推進することになる。2009年8月30日、国務院は大図們江地域開発を国家戦略の格上げに象徴されるように、中国政府は、図們江地域開発を重視するようになっている。これは図們江地域開発が新たな開発ラウンドに入ったことを意味する。

『図們江地域国際投資貿易フォーラム』、『東北アジア投資貿易博覧会』の規模、影響力は年々増しており、関係各国が同地域に関心を持ち始めている。東アジア共同体形成が議論される中で、2015年前後には図們江地域開発がピークを迎える。今後20年間、地域経済統合の波は、一部消極的だった国も門戸を開かざるを得ない。そうなると、東北アジアの経済協力が可能になり、図們江地域開発はその機関車、礎石になる可能性がある。さらにロシア極東経済も正常な軌道に乗り出し、北朝鮮も経済改革を断行することで、両国が図們江地域開発に必要な潜在力と能力を有することになり、図們江地域開発が実質的に新たな歴史時期に入ることになる。

表1. 図們江地域開発計画（TRADP）関連年表

1986年12月	中国図們市で「吉林省全方位対外開放戦略研究会」開催、袁樹人等による「図們江利用、及び我が省の対外貿易口岸の開設に関する調査報告」発表
1987年3月	中国国家海洋局の専門家による図們江・防川の調査
1989年1月	北京で最初の「北東アジア経済圏セミナー」開催（中国社会科学院アジア太平洋研究所と東西センター共催）
1990年7月	中国吉林省長春市「北東アジア経済発展技術協力国際会議で、丁士晟「図們江ゴールデン・トライアングル開発構想」発表
1990年10月	ロシア共和国最高会議で、ナホトカ経済特区の創設を承認
1991年3月	UNDP が第5次事業計画（1992—96年）として TRADP の推進を決定
1991年7月	UNDP 第1回「北東アジア準地域調整者会議」がモンゴル・ウランバートルで開催、TRADP を最優先課題とし取り込むことで、調査団派遣を決定
1991年10月	UNDP 第2回「北東アジア準地域調整者会議」が平壤で開催。調査団が「図們江地域開発調査報告書」を発表、図們江計画管理委員会（PMC）の設立
1991年12月	北朝鮮「羅津・先鋒自由経済貿易地帯」設置に関する政務院の決定を発表
1992年2月	PMC 第1回会議ソウルで開催。法律・金融、貿易、インフラ作業チーム設置を決定
1992年3月	中国国務院琿春を国境経済開放区（辺境経済合作区）に指定

1992年10月	PMC 第2回会議北京で開催
1993年5月	PMC 第3回会議平壤で開催
1993年9月	第4回「北東アジア経済フォーラム・龍平会議」（韓国江原道）開催。北東アジア開発銀行構想に関する最初の研究報告書発表 ○日本経団連主催の「図們江開発セミナー」東京で開催
1994年2月	UNDP がニューヨークで図們江地域開発事業実務者会議開催
1994年7月	PMC 第4回会議モスクワで開催
1994年12月	UNDP 図們江事務局がニューヨークから北京に移転
1995年5月	PMC 第5回会議北京で開催、3つの合意文書仮調印
1995年9月	圈河（中国）—元汀（北朝鮮）間の税関開通
1995年10月	中国延吉で UNIDO 主催の第1回図們江地域国際投資フォーラム開催、羅津—釜山間の定期コンテナ航路開通、琿春—羅津ルートと連結
1995年12月	第6回 PMC 会議ニューヨーク国連本部で開催、「3つの協定」に正式調印し、「調整委員会」（中・朝・ロ）と「諮問委員会」（中・朝・ロ・韓・蒙）発足、UNDP 図們江事務局を設立
1996年4月	第1回「諮問委員会」・「調整委員会」北京で開催、経団連「日ロ経済委員会」にザルビノ F/S 調査実施協議会を設置
1996年9月	北朝鮮と UNDP/UNIDO 主催で、羅津で初の国際投資フォーラム開催
1996年10月	第2回「諮問委員会」・「調整委員会」北京で開催、日本を正式メンバーに招請することを決議
1997年1月	投資促進ワークショップ北京で開催1997年5月第1回環境ワークショップウラジオストクで開催
1997年6月	観光ワークショップ延吉で開催
1997年8月	第7回「北東アジア経済フォーラム・ウランバートル会議」開催、S. カッツの NEASB（北東アジア開発銀行）設立案発表
1997年11月	第3回「諮問委員会」・「調整委員会」北京で開催、第2段階（1997—99）開発計画書に署名
1998年2月	投資環境改善方策に関するワークショップウラジオストクで開催
1998年5月	UNDP 主催のウラジオストクで国際投資ビジネス・フォーラム開催
1998年7月	第1回図們江地域観光ワーキンググループ会議が中国延吉で開催、観光開発計画作成
1998年9月	第3回図們江地域国際投資フォーラム琿春で開催、羅津・先鋒ミニ・フォーラム
1998年12月	UNDP 図們江事務局主催による交通ワークショップ延吉で開催1999年1月観光ワークショップ長春で開催、図們江地域開発ウェブサイトを開設（www. tradp. org）
1999年6月	第4回「諮問委員会」・「調整委員会」ウラジオストクで開催、東西輸送回廊会議ウラジオストクで開催、富山県で第2回北東アジア自治体連合実務委員会が開催、環日本海5ヶ国、34自治体参加 ○5月琿春—クラスキノ間の中ロ鉄道正式に開通
1999年8月	観光ワークショップ琿春で開催、秋田港とロシアポシエツト港を結ぶ定期コンテナ船が開設、羅津—新潟間の定期コンテナ航路開設
2000年3月	UNDP 図們江事務局主催による貿易・投資ワークショップ北京で開催
2000年4月	東草（韓国）—ザルビノ（ロシア）航路開設、琿春（中国）—ザルビノ（ロシア）ルート連結
2000年10月	輸送ワークショップ長春（中国）
2000年10月	図們江地域開発の政府間調整者会議北京で開催
2001年5月	第5回「諮問委員会」会議及び地域フォーラムが香港で開催、図們江開発に関する賢人会議を設立
2001年11月	図們江地域開発の政府間調整者会議が延吉で開催、5ヶ国代表参加、エネルギー・通信のワーキンググループ設立、2002年度事業計画と予算について審議、決定

2002年 6月	第6回「諮問委員会」、「調整委員会」、「賢人会議」がロシアのウラジオストクで開催
2002年 9月	第3回図們江地域国際投資フォーラムが延吉で開催（中国）
2003年10月	第1回図們江輸送回廊の活性化を目指すワーキンググループ会議（琿春）
2004年 2月	第2回図們江輸送回廊の活性化を目指すワーキンググループ会議（新潟）
2004年 7月	第3回図們江輸送回廊の活性化を目指すワーキンググループ会議（ウラジオストク）
2004年 7月	第7回「諮問委員会」、「調整委員会」、「賢人会議」が中国の長春で開催。再び日本の参加を促した。
2004年10月	佛山—サンクト—ペテルブルグ貿易推進会（延吉）
2004年11月	図們江地域投資サービス（TRIS）ネットワーク国際会議（ウーン UNIDO 本部）
2005年 9月	中国商務部、國務院東北振興弁公室、吉林省政府、UNDPなどの共催による第1回東北アジア投資貿易博覧会を開催。第8回「諮問委員会」、「調整委員会」が長春で開催。大図們江行動計画を提示。
2006年 8月	第1回延吉国際投資フォーラムが延吉で開催
2006年 9月	第2回東北アジア投資貿易博覧会が長春で開催
2007年 8月	第2回延吉国際投資フォーラムが延吉で開催
2007年 9月	第3回東北アジア投資貿易博覧会が長春で開催
2007年11月	第9回「諮問委員会」、「調整委員会」がウラジオストクで開催
2008年 8月	第3回延吉国際投資貿易博覧会並びに第4回国際投資フォーラムが延吉で開催
2008年 9月	第4回東北アジア投資貿易博覧会が長春で開催
2009年 3月	第10回「諮問委員会」、「調整委員会」がウランバートルで開催、「ウランバートル宣言」通過。
2009年 8月	第5回延吉・図們江地域国際投資フォーラムが延吉で開催（中国）
2009年 8月	國務院が『中国図們江地域開発企画綱要—長吉図を開発開放先導区に』を批准
2009年 9月	第5回東北アジア投資貿易フォーラムが長春で開催

（出所） 金向東「図們江地域経済開発の現状と課題—北東アジアにおける地域協力と延辺」『立命館経済学』第54巻第2号、2005年7月と各種資料により作成。

注釈

- 1) 第一のプロジェクトは図們江地域を国際自由貿易区に創り上げる。第一歩としては中日韓露の二カ国或いは国を跨る多国間自由貿易区の設立、第二歩は図們江地域国際自由貿易区を設立する。第二のプロジェクトは長吉国際貿易港の設立である。具体的には長春貿易区を国際中継貿易区にし、税関、商品検査、国境検査、関連施設などの一体化運行を実現する。第三のプロジェクトは科学技術革新区の創設である。長春国家生物産業基地と光電子産業基地の上で若干のハイテク研究開発センターと工業団地を建設する。第四のプロジェクトとしては国際工業団地の建設つまり、中日・中韓・中露工業団地の建設である。第五のプロジェクトは現代物流センターを建設である。長春龍嘉・延吉空港と琿春などの税関を活用し、東北アジア地域と東北地区に向けての保税加工・保税物流・保税倉庫を一体とした物流流通センターの建設である。第六のプロジェクトはエコツアー区の建設であり、第七は先端サービスセンターの建設、第八は現代農業モデル区の建設など八つのプロジェクトが含まれる。
- 2) 「『장길도개방개발선도구계획』 국무원 비준」『길림신문』2009年9月2日付け。
- 3) 「李龍熙会见納塔麗姬（李龍熙がナタリーに会见）」『延辺日報』2009年8月14日付け。
- 4) 『協定』はモンゴル国のチョイバルサン（Choybalsan）を起点とし、中国の長春から琿春まで經由して、さらに日本海関連港湾まで向かう東方グラウンド回廊を建設する共通認識を有するに至った。

- 中・日・蒙三カ国がチョイバルサンと琿春両地域の資源加工，物流，資源節約型，環境配慮型などの面で協力する。同時に琿春においてモンゴル物流加工区と日本物流加工区の設立を支持する。『協定』では三カ国が同プロジェクト第一期の100億ドル融資を推進すると同時に，モンゴル国チョイバルサンから中国のアル山までの鉄道連結プロジェクトを早期に起動する。また早期に図們江開発を推進することに関連地域と国家のコンセンサスを得た。
- 5) 趙伝君『東北亜三大関係研究—経貿，政治，安全』社会科学文献出版社，2005年，354頁。
 - 6) 国家改革發展委員会東北振興司（2008）『振興老工業基地工作簡報』第2期，2008年9月10日。
 - 7) 「提昇階次亮突出—第五屆東北亞博覽會準備就緒」『吉林日報』2009年9月1日。
 - 8) 図們江開發の進展に関しては，範力「加快図們江区域開發促進東北亜經濟合作」『宏觀經濟研究』，2009年第2期，66-67頁。
 - 9) 「5월 중하순 도문-조선 청진 관광열차 개통」『길림신문』2009年5月2日付け。
 - 10) 「고성리 사타자통상구 국가급으로 승격」『연변일보』2009年8月13日付け。
 - 11) 「総投資11.9億元連接兩個対朝口岸—和龍至南坪鐵路開工」『吉林日報』2009年8月30日付け。
 - 12) CCTV1 チャンネル2009年11月17日午後七時ニュースで放送。
 - 13) 汪清龍騰エネルギー開發公司油頁岩開發プロジェクトの総投資額は7.17億元であり，同プロジェクトは三期に分けて建設する。第一期のプロジェクトは2006年8月に生産開始し，二期目は2008年10月工事が完成し生産状態に入り，第三期目は2009年完成予定である。すでに5億元を投資して，40台の乾留炉を建設し頁岩油の年産が6.5万トンに達した。生産高は2.6億元であり，3380萬元税金を納めた。このプロジェクトが完成すれば頁岩油の年産は8万トンに達する計画で，生産高は6億元を実現し，6000萬元の納税も可能になり，4000人の就職が解決できる。
 - 14) 2008年8月30日，9月5日にそれぞれ終わった『東北アジア投資貿易博覽會』，『延吉・図們江地域國際投資貿易博覽會』の契約投資額は78.5億元，527億元で，投資プロジェクトはそれぞれ42件，37件である。例えば，琿春-ザルピノ-東草—新潟国境をまたがる連絡輸送ルート，大唐琿春發電所三期，和龍市年産80万トンの還元鉄，敦化大石河モリブデン開發などの大プロジェクトが今回の両博覽會で契約したものである。
 - 15) 清華紫光長白山人參産業基地有限公司は清華紫光集團の子会社である紫光古漢集團株式有限公司が創設した人參産業の代表企業である。当社は延吉市に位置しており，投資額は3億元であり，一期プロジェクトは2009年9月に生産を開始した。
 - 16) 実力，潜在力，活力，効力，魅力を言う。
 - 17) 「3151」プロジェクトとは，三年の時間をかけて，現有の千萬元以上の納税企業をさらに成長させる。五年の時間をかけて新たに千萬元以上の納税企業を10社を育ち，千萬元納税企業を20社にまで拡大させる。
 - 18) 4Sとはsale, sparepart, service, surveyなど四つの英語単語の最初の文字をとって作った言葉である。つまり，販売，部品供給，アクターサービス，情報フィードバックの四つの性能を一体化した自動車サービスのことを指す。
 - 19) 「延辺完成固定資産投資近480億元」新華網：<http://www.jl.xinhuanet.com>
 - 20) 塔東鉄鉍は吉林省でにおいて今まで発見された最大の鉄鉍であり，採掘可能な鉄鉍埋蔵量1.4億トン，またバナジウム鉍，磷鉍，コバルト鉍なども埋蔵されており，総投資額は20億元余り達する。同社は吉林熬東業業集團，吉林省地質監査局，通鋼集團など三大株主によって共同に設立した会社である。第一期プロジェクトの年間鉄鉍石の処理量は500万トン，精鉄粉の生産量は100万トン，硫酸生産量24万トン，精磷粉の生産量は29万トン，磷酸肥料の生産量は40万トンに達する。プロジェクトが完成すれば，金融危機前の精鉄粉価格で計算すれば，年生産高は15億元に達し，納税額も7億元近く達するという。（「李德洙在敦化塔東鉄鉍調研時強調開發鉍山不能忽視環境保護」『延辺日報』2009年8月26日付け。）
 - 21) 「金龍鉄鋼項目二期工程在安図奠基」延辺信息港：<http://www.yb983.com/ec/>

- 22) 探査によりはっきりした六つの鉱区にモリブデン埋蔵量14.9万トンが確認され、さらに数十箇所で探査を続けており、より多くの量を確認できる確率は高い。協議にサインしたことで延辺モリブデン資源開発のテンポを速め、モリブデンの深加工利用、モリブデン産業をより大きく、より強くするために積極的且つ重要な意義を有している。錦州新華龍実業集団は国有最大のモリブデン産品シリーズを生産する企業の一つである。モリブデン採掘、選鉱、製錬、加工、貿易を統合した企業集団である。2006年集団総資産6億元、従業員1500人、売上高21億元、納税額1.6億元に達する。〔『延辺日報』2007年11月28日付け〕2008年の同集団の総資産は10億元超、売上高30億元、納税額2.36億元に上り、いずれ2006年より大幅増加した。
- 23) 「琿春市獲地方級財政収入占GDP比重獎」吉林省人民政府：<http://www.jl.gov.cn/>
- 24) 紫金鉱業集団は香港株式上場企業において総合ランキング10強の中にランク付けており、2009年に中国「最も競争力のある香港株式上場企業」の称号を獲得した。同社の琿春第一期プロジェクト投資額は6億元、生産高は4億元であり、一日紫金鉱石処理量は20万トンに達し世界一である。
- 25) 琿春宝力通信公司は中国宝力集団の全額出資の子会社であり、ニューヨークに上場したアメリカ超伝導テクノロジー株式会社の株式を980万ドルで27.8%取得し、超伝導ウェブファイター、自動車指紋識別システムなどを琿春で生産する。
- 26) 中朝「路港区」プロジェクトは琿春圏河税関から北朝鮮羅津港までの陸海通路を指す。「路」は琿春圏河税関から北朝鮮の羅津港までの73キロ2級道路の建設プロジェクトを指し、「港」は北朝鮮羅津港3号埠頭の改造、4号埠頭の新設とポート曳船を増やし、クレーンなどの設備及び貯蔵施設プロジェクトを指し、「区」は羅津港を巡って輸出加工、保税倉庫、ビジネスサービスなどの機能を有している物流区プロジェクトを指す。
- 27) 延辺朝鮮族自治州統計局『延辺朝鮮族自治州2008年国民経済和社会発展統計公報』延辺朝鮮族自治州統計局、2009年3月3日。
- 28) 王勝今「加強区域合作構築和諧東北亞」『東北亞区域和平与發展大12次国際學術文集』吉林大学、2006年、4頁。
- 29) 원동욱「북중간 두만강지역 국제협력개발사업의 현황과 전망-교통물류 인프라를 중심으로-」『기획논단』2007年秋号、15-21頁参照されたい。

New development project in the tumen river area

Jin Xiangdong^{*}

Abstract

In the age of new developmental pattern featuring the integration of regional cooperation, factors such as the improvement of international relations among North-East regions and good economic situations of countries over the world, along with the inner driving momentum of Yanbian have established the favorable conditions for the development and exploitation of Tumen River area. Therefore, the Tumen area has attracted the attention of UNIDO and central government again and there is another rise concerning the development and exploitation of bordering countries. Yanbian is playing the leading role in the development and exploitation from the role of “main participant”.

In order to deepen the scale of development and make sure of the quality of exploitation, this essay brings forward the mechanism of innovative international cooperation on development. Other solutions and measures are also mentioned such as to establish new growth points in order to make sure the expedite transportations connecting other areas, build reformation test area and financial supporting system.

Key words: Tumen River area, development and exploitation, government-leading, another attention given, inner driving momentum, solutions and measures

* Jin Xiangdong, Center for Southeast Asian Studies, Xiamen University 361005, Fujian